

令和 5 年度 滝沢市水道事業の進捗状況

1 概況

令和 5 年 3 月に「第 3 次滝沢市水道事業ビジョン」「第 3 次滝沢市水道事業中期経営計画（前期）」を策定しました。「信頼され続ける水道」を基本理念とし、持続可能な水道事業を運営するように努めています。

「安心・安全」安心して飲むことができる安全な水道

■水源の確保と保全

- ・ 柳沢大湧口水源の有効活用を進めるため、一本木配水系と柳沢高区配水池を結ぶ連絡管について一部布設工事を実施しています。
- ・ 姥屋敷水源周辺の 2 筆について、水源保護用地として取得しました。
- ・ 水源及び水源涵養地の刈払いを実施しました。
- ・

■安全な水の供給

- ・ 水温水質が安定している地下水を主な水源とし、おいしい水の供給に努めています。また、水質検査計画に基づき、水質管理を徹底しています。
- ・ 供給する浄水について、すべて水質基準に適合しており、また原水水質において、PFOS・PFOA 等の有機フッ素化合物は検出されておられません。
- ・

■給水サービスの向上

- ・ 配水管の各所に設置された減圧弁の点検調整を行い、給水圧の適正化を図ります。
- ・ 各配水系の境界や配水管の末端給水世帯等、水道水が滞留する箇所を中心に、滞留水排水を実施し市民に安心、安全な水道水を提供しています。

「安定・強靱」安定した給水を実現する強靱な水道

■水道施設の最適化

- ・ 漏水事故が多いビニール管を中心に地震に強い耐震管に布設替し、約 2.4 km (7 地区)の路線について工事を実施しています。
- ・ 配水区域のうち、比較的有収率が低い柳沢高区配水池系を中心に漏水調査を実施中です。

■災害応急対策の充実

- ・ 市役所防災庁舎脇にある給水塔操作、給水車操作及び給水コンテナ組立注水訓練を実施し、新規配属職員に操作方法等を周知しました。
- ・ 岩手県の総合防災訓練に合わせ災害応急給水訓練として、給水車による注水・給水作業を実施しました。

「環境・持続」環境に配慮した持続可能な水道

■顧客サービスの向上

- ・ 窓口業務から料金徴収業務までお客様センターによるワンストップサービスで、利用者の利便性を向上させています。
- ・ 令和5年4月支払い分からスマホ決裁を利用できるようになりました。
- ・ 年3回、上下水道広報誌「ちゃぐ水だより」を作成、配布します（夏号は8月1日発行済み、冬号は12月1日、春号は3月1日発行予定）。
- ・ 「広報会議」を毎月開催し、今後の広報活動や利用者の理解が深まるような情報提供、参画の方法について検討を始めました。

■環境対策の推進

- ・ 浄水処理や工事で発生する浄水汚泥や建設副産物の適正処理を継続しています。
- ・ 浄水場の適正な運転管理を行い、すべての配水池からの自然流下での給水を維持し、水の位置エネルギーを有効活用、省エネルギー化に努めました。

■財政の健全化

- ・ 水道料金の収納状況について、9月期末収納率は現年度分で96.34%（前年度同期96.24%）、過年度分（前年度調定分）が99.98%（前年度同期99.99%）となっています。
- ・ 水道施設の更新需要への対応として、今年度より、国の補助金である水道施設耐震化等交付金を活用し、配水管更新事業を実施しており、財源の確保に努めました。

■人材育成と組織力の強化

- ・ 職員の研修につきましては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行するに伴って現地参集による研修会の開催などが活発になってきており、出張を伴う研修とWebによる研修とを研修効果や費用面などを比較検討して選択し、積極的に受講しています。
- ・ 日常業務における実務に関するOJTの実践により、知識・技術の習得と継承に努めています。

■官民連携・広域連携の推進

- ・ 岩手県が主体となり実施している岩手県水道事業広域連携検討会盛岡広域ブロック検討会において、意見交換等、他の自治体との連携を図っています。
- ・ 盛岡市と滝沢市の相互連絡管※を使用した応援給水訓練を行いました。

※盛岡市と滝沢市の市境をつなぎ災害時などに水を融通しあうために作られた管

第3次滝沢市水道事業ビジョン 業務指標

第3次滝沢市水道事業ビジョンにおいて設定している業務指標における進捗状況は以下のとおりです。

区 分	指 標	説 明	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 見込	令和9年度 目標
安心・安全	最大残留塩素濃度 (mg/L)	市内毎日水質検査各給水栓における残留塩素濃度最大値。0.4mg/L以下だと塩素臭を感じにくい。	0.40	0.40	0.40	0.40
	地下水率 (%)	水源、利用水量のうち地下水の割合。	98.4	98.5	98.7	99.5
安定・強靱	有収率 (%)	年間有収水量を年間配水量で割ったもの。	92.4	92.3	91.0	91.0
	配水池貯留能力 (日)	一日平均配水量の何日分が配水池などで貯留可能であるかを表しており、給水に対する安全性、災害・事故等に対する危機対応性を示す。	0.83	0.85	0.85	0.85
	給水拠点密度 (箇所/km ²)	給水区域当りの拠点数であり、緊急時の利用しやすさを表している。	16.4	16.4	16.4	16.4
	配水池耐震施設率 (%)	耐震対策の施されている配水池容量の割合。	49.7	49.7	49.7	62.0
	管路の耐震化率【全線】 (%)	管路総延長のうち耐震管の占める割合。	34.2	34.3	34.9	38.4
	管路の耐震化率【幹線】 (%)	幹線管路のうち耐震管の占める割合。	25.9	26.2	27.0	27.1
環境・持続	経営資本営業利益率 (%)	経営成績に対する総合的な指標であり、投下した経営資本と営業利益の関係を表す指標であり、指標は高いほど良い。	1.4	1.0	0.7	0.5
	経常収支比率 (%)	収益性を見る最も代表的な指標で、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表す。	126.7	121.2	123.4	112.0
	給水収益に対する企業債残高の割合 (%)	給水収益に対する企業債残高の割合を示しており、企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標。	236.7	232.6	195.8	268.0
	給水原価 (円/m ³)	有収水量 1m ³ 当りについて、どれだけの費用がかかっているかを表すもの。	152.1	158.9	170.2	175.0
	水道業務経験年数度 (年/人)	業務は経験によってその遂行能力にも差が出るので、組織全体とすれば十分経験を積んだ職員がいることが望ましい。	5.1	6.9	7.9	6.0
	配水量1立法メートル当たり消費エネルギー (MJ/m ³)	全施設での総エネルギー消費量を年間配水量で割ったもの。	1.01	1.01	1.01	1.01

第3次滝沢市水道事業中期経営計画（前期）において設定している〔取組評価項目〕の進捗状況は以下のとおりです。

施策	取組評価項目	令和9年度目標値等	評価	令和5年度内における進捗状況
1-1 水源の確保と保全	地下水率が98%（R5年度）から99%（R9年度）に達している。	地下水率99%		令和5年度前期98.7%見込み
	水源の保全のために必要な用地の取得が検討されている。	用地取得検討		取得可能用地の検討中
1-2 安全な水の供給	水安全計画や適正に策定した水質検査計画に基づき水質を監視している。	実施		水質検査計画に基づき水質検査を実施
	浄水において、すべての水質基準に適合している。	適合率100%		水質基準超過なく適正な浄水処理を継続
	表流水の浄水工程において、ろ過水濁度が0.1度以下である。	0.1度以下		ろ過水濁度が0.1度を越えることなく浄水処理を継続
1-3 給水サービスの向上	3階直圧給水が可能のように減圧弁が適正に管理されている。	管理		減圧弁保守点検を実施し、適正水圧での供給を継続
	管理者に対して定期的に指導を実施している。	実施		令和6年度以降検討
2-1 水道施設の最適化	将来水需要や収支等総合的判断のうえで、施設の再編・廃止が検討・実施されている。	再編・廃止検討		令和6年度以降検討
	保守点検結果に基づき補修が実施されている。	点検・補修実施		保守点検を実施
	基幹水道施設更新計画を策定している。	R7計画策定		令和7年度策定予定
	配水管更新計画を策定している。	R5計画策定,R7補正		上記基幹水道施設とあわせ令和6年度から2か年で策定予定
	管路の整備・更新により、耐震化が推進されている。	耐震化率38.0%		令和5年度末耐震化率34.9%見込み
	漏水調査等により漏水箇所の特特定と漏水修理を速やかに実施している。	実施		漏水調査実施中
2-2 災害応急対策の充実	連絡管が整備され、非常時に連絡操作ができる体制である。	管理、訓練		連絡管の確認と訓練を実施
	受援計画を策定している。	R7計画策定		令和6年度検討開始予定
	応急給水に対応できる機材が整備されている。	機材整備		応急給水用の資材の点検修理と、訓練を実施
3-1 顧客サービスの向上	料金徴収業務の各業務が受託者にスムーズに移行され、お客様センターでのワンストップサービスが継続されている。	次期民間委託開始		お客様センターでのワンストップサービス継続
	受託業者の業務内容に市民の信頼が得られている ⇒ 次回水道アンケート設問「お客様センターの対応」について「満足」「やや満足」の回答が令和3年度のアンケート結果42.5%を上回っている。	水道定期アンケート「満足」「やや満足」回答率42.5%		令和8年度アンケート実施予定
	アンケート調査等による利用者ニーズの把握、水道事業への理解拡大や、調査結果の事業反映の取組ができています。	次期計画等への反映		令和8年度アンケート実施予定

施策	取組評価項目	令和9年度目標値等	評価	令和5年度内における進捗状況
	ホームページによる水道事業の情報提供について、新たな仕組みを検討する。	仕組み検討、内容拡充		ホームページや広報誌などの仕組みや内容について、部内で会議を開催するなどして検討中
	個人情報適正に管理され情報漏えいが発生していない。	情報漏えい無し		情報漏えい無し
3-2 環境対策の推進	汚泥や建設副産物が適正に処理されている。	適正処理100%		マニフェストにより全量適正に処理されていることを確認
	施設更新時に技術の進展に伴う省エネルギー技術導入の検討、実施が図られている。	更新設計時に省エネルギー化を検討・実施		自然流下方式による省エネルギーでの管路設計を継続した
3-3 財政の健全化	施設更新の資金需要に対応した水道料金改定の方針、水道料金算定要領が適宜見直され、改定の検討作業が実施されている。	各計画策定に伴い検討作業実施		令和8年度検討予定
	柳沢低区浄水場の浄水施設廃止により、コストが削減されている。	R6浄水施設廃止		令和5年度末休止見込み
	水道料金の未納対策が実施され、不納欠損の削減が図られている。目標収納率99.98%。	収納率99.98%		令和5年度末時点で過年度分収納率99.98%（目標収納率を達成する見込み）
3-4 人材育成と組織力の強化	企業職員確保育成方針による人材育成と技術継承の活動が実践されている。	人材育成取組評価・改善		企業職員確保育成方針に従い、外部研修の受講、OJTの推進に取り組んでいる
	水道技術管理者水準にある職員が複数配置されている。	複数配置		水道整備課に2人配置
3-5 官民連携・広域連携の推進	各業務を点検・評価し、浄水場管理や受水槽点検など、業務内容改善や経営上有利になるものの委託化がなされている。	各種管理委託検討		浄水場運転管理等、委託契約を継続した
	民間事業者と支援協定が締結されている。	協定の検証、情報収集		料金徴収業務受託者と「災害時における応援協力に関する協定書（H29.6.1）」締結
	日本水道協会東北地方支部や他自治体と災害を想定した合同訓練が実施されている。	訓練実施		R5.7.27岩手県水道災害連絡訓練参加 R5.7.29総合防災訓練参加
	専用水道組合の将来について意見交換を継続している。	意見交換		今年度現時点では未実施

2 令和5年度水道事業会計について

(1) 収入及び支出の決算見込額

単位：百万円

区分		令和5年度 決算見込A	令和4年度 決算B	比較増減 A－B
収益的 収入及び 支出 (消費税抜)	①水道事業収益	1,019	1,031	-12
	うち給水収益	844	859	-15
	うち長期前受金戻入益	91	88	3
	②水道事業費用	867	851	16
	うち減価償却費	399	425	-26
	うち支払利息	26	27	-1
	③差引 (①－②)	152	180	-28
資本的 収入及び 支出 (消費税抜)	④資本的収入	132	114	18
	うち企業債	100	80	20
	⑤資本的支出	698	434	264
	うち建設改良費	552	294	258
	うち企業債元金償還	145	140	5
	⑥資本的収支不足額 (⑤－④)	566	320	246
企業債残高		1,964	1,999	-35
流動資産－流動負債 (企業債除く)		1,037	1,311	-274

(2) 主な保存工事

単位：百万円 (消費税及び地方消費税込)

費用区分	事業内容	事業費 財源：給水収益
原水及び浄水費	柳沢取水ポンプ場既存建具修繕工事	6
	浄水施設修繕工事	
配水及び給水費	配水施設等修繕工事	17
	路面復旧費	
事業費合計		23

建設改良費の主な内容

(単位：百万円、消費税及び地方消費税込)

区分	事業名称	事業内容	予算額		財 源 内 訳	
営業設備費	機械及び装置取得費	量水器・直購入 量水器・貯蔵品出庫	量水器取得費	52	自己資金	52
	土地取得費	水源保護用地取得費	土地取得費	6	自己資金	6
	車両運搬具取得費	新規原浄車両	車両取得費	3	自己資金	3
			計	61	計	61
	事業費計					
水道施設整備費	基幹水道施設整備事業費	より安全な水道水の供給を確保するた 湯舟沢配水池ほか電気設備等更新工事 送水管布設工事	工事費及び	126	自己資金	126
			計	126	計	126
	事務費	人件費等	事務費	17	自己資金	17
			計	17	計	17
	事業費計					
配水管整備費	配水管整備事業費	経年化している配水管及び道路改良事業等に併せて配水管を耐震管に布設替えし、有効率を向上させる。 砂込地区工事 牧野林地区工事 葉の木沢山地区工事 大釜大畑地区工事 巣子地区工事 鵜飼向新田地区工事	工事費	280	自己資金	280
			調査設計費	28		28
			計	308	計	308
	路面復旧費	配水管布設箇所舗装工事	工事費	28	自己資金	28
			計	28	計	28
	その他配水管整備費	漏水対策事業：配水管に設置された流量配水流量計更新工事 1台	工事費	2	自己資金	2
			計	2	計	2
	事務費	人件費等		20	自己資金	20
			計	20	計	20
	事業費計					
建設改良費合計						561

(4) 建設改良事業計画及び進捗状況

金額：百万円（税込）

区分	設置場所	内容	R5	R6	R7	R8	R9	進捗状況	
水道施設整備費	取水施設								
			0	0	0	0	0		
	導水施設	姥屋敷導水ポンプ場	計装盤更新						-
			発電機更新						-
			圧力タンク更新						-
				0	0	0	0	0	
	浄水施設	滝沢浄水場	中央監視制御装置更新				70		-
		湯舟沢監視所	計装盤更新	6					工事契約済み
		湯舟沢配水池	計装盤更新	34					工事契約済み
		柳沢低区浄水場	計装盤更新			45			-
		小岩井第2配水池	計装盤更新						-
		駒形配水池	計装盤更新						-
		姥屋敷配水池	計装盤更新						-
		湯舟沢配水池	発電機更新	53					工事契約済み
			93	0	45	70	0		
	配水池	柳沢高区配水池	高区配水池更新					350	-
				0	0	0	0	350	
	導送水管	後地内～柳沢地内	送水管新設 (水系連絡管)	33	50	60	60		工事契約済み
		柳沢地内	送水管耐震化						-
				33	50	60	60	0	
	既存施設設備更新	全施設対象	定期保守管理の結果に基づき更新・補修	0	11	39			-
				0	11	39	0	0	
		水源地地内	水源保全用地取得費	6	3	3	3	3	2筆契約済み
				6	3	3	3	3	
	調査設計費	施設整備地内	用地買収				3		-
		全施設対象	施設更新に係る基本方針策定		10	10	20		-
		全工事	水道施設の設計調査費	0	1	5	4	6	-
			0	11	15	27	6		
人件費	全工事	職員2名分人件費	17	16	16	16	16	-	
基幹水道施設整備費 合計			149	91	178	176	375		
配水管整備費	柳沢高区系、低区系、小岩井系、駒形系、滝沢系、国県市道改良箇所	配水管更新・新設 幹線管路(老朽管路、V P管漏水発生箇所) 配水管移設(道路改良 関連)	300	300	300	300	150	線路に近接する箇所を除きすべて契約済み	
		給水区域一円	2		2		2	部品交換での対応し経過監視中	
			302	300	302	300	152		
	調査設計費	全工事	配水管の調査設計費	15	15	20	20	20	今年度施工分はすべて契約済み
	人件費	全工事	職員3名分人件費	24	24	24	24	24	-
配水管整備費 合計			341	339	346	344	196		
その他	営業設備費	水道メーター購入費	30	25	41	36	29	購入費：36百万 購入個数：2,899個	
		水道メーター交換費	31	25	41	36	29	交換費：26百万 交換件数：2,637個	
		工具器具備品購入費	1		1		1	-	
	その他建設改良事業								
その他 営業設備費 合計			62	50	83	72	59		
総事業費			552	480	607	592	630		